

外国語教育メディア学会（LET） 関西支部 2021 年度春季研究大会 発表要項集



日 時： 2021 年 6 月 27 日（日） 10：00～ 17：20

場 所： オンライン開催（要事前申込）

主 催： 外国語教育メディア学会（LET） 関西支部
<http://www.let-kansai.org/>

事務局： 外国語教育メディア学会（LET） 関西支部事務局

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 1 丁目 2-1
神戸大学 大学教育推進機構
国際コミュニケーションセンター
大和 知史 研究室内
E-mail : kansailet@gmail.com

プログラム

10:00- 受付開始

10:15-10:30 開会行事

司会◆ 大和 知史 (事務局長・神戸大学)
挨拶◆ 菅井 康祐 (支部長・近畿大学)

10:30-11:50

ワークショップ

(当日はリアルタイム視聴のみ) 50名まで (申し込み締め切り: 6月19日)
「小中高大の外国語学習の取り組みを促進するオンラインツールとその活用法」
講師◆ ウォレスタッド 千鶴子 (大阪市立大学)
司会◆ 布施 邦子 (大阪市立大学)

10:30-11:50

シンポジウム

(当日はリアルタイム配信, 後日 LET 関西支部会員にオンデマンド視聴 URL を配信)
「インプットとアウトプットの関係の再構築 —自然な英語の定着に向けて—」
講師◆ LET 早期英語部会
竹田里香 (立命館大学)
石田雅子 (大阪市立大学大学院生)
杉本孝美 (大阪総合保育大学)
井狩幸男 (大阪市立大学名誉教授)
司会◆ 眞崎 克彦 (神戸親和女子大学)

12:00-13:40

昼食

13:40-15:30

研究発表・実践報告・Classroom Tips ① 13:40 - 14:10 ② 14:20 - 14:50
③ 15:00 - 15:30

第1室 (実践報告・Classroom Tips)

司会◆ 森田 光宏 (広島大学)

- ① [実] VOA Learning English を用いた簡易 e-Learning 教材開発と授業実践事例
神谷 健一 (大阪工業大学)・久田 歩 (大阪工業大学)
- ② [実] ポストコロナに向けて: オンラインを活用した学校間での協同授業モデル
堀尾 美央 (滋賀県立米原高等学校)
- ③ [CT] Google Slides による Virtual Classroom
真島 由朱 (大阪府立箕面高等学校)

第2室 (研究発表・実践報告)

司会◆ 眞崎 克彦 (神戸親和女子大学)

- ① [研] 情報科学専攻日本人大学生の高频度語彙親密度調査
古樋 直己 (大阪工業大学)
- ② [研] 日本語教育でメディアをどのように提供するか: 優れた日本語学習者の学習行動からの示唆
陳 奕霖 (大阪大学 大学院生)

③ [実] クラウド型の最新TTS合成音の比較
東 淳一 (神戸学院大学)

15:30-15:40

休憩

15:40-17:10

基調講演 (当日はリアルタイム視聴, 後日 LET 関西支部会員にオンデマンド視聴 URL を配信)
「学習者コーパスに基づく L2 英語文法形態素発達研究: 多要因分析と縦断的研究」
講師◆ 村上 明 (University of Birmingham)
司会◆ 田村 祐 (関西大学)

17:10-17:20

閉会行事

司会◆ 大和 知史 (事務局長・神戸大学)
挨拶◆ 名部井 敏代 (副支部長・関西大学)

お知らせ

- 大会の参加申し込みは、6/24 (木) までに <https://let-kansai-2021-spring.peatix.com> から参加登録をお願いします。(期限までにチケット終売の可能性もあります。期限を過ぎてお申し込みをすることはできません。)
- ワークショップについては準備等のため、参加人数を 50 名までとします。6/19 (土) までに上記の参加申し込みサイトから別途申し込みをしてください。その際、事前のアンケートにもご回答ください。
- Zoom セッションにご参加頂く場合、事前に登録されたお名前を表示頂くようお願いいたします。
- 研究発表・実践報告・Classroom Tips のご発表の間に、賛助会員からのご案内があります。

小中高大学の外国語学習の取り組みを促進するオンラインツールと その活用法

Engaging in fundamental online tools and approaches for improving teaching from elementary school to university

ウォレスタッド千鶴子（大阪市立大学 COIL 推進室）

コロナ禍の中、対面授業がオンライン型授業へ移行となり、教員の中にはテクノロジー関係は苦手だけれど、何とか導入しているという方も少なくないだろう。どのようなオンラインツールを使い、学習者の言語活動を活発化させれば良いか、また、能力の違う学習者にどのように対応したら良いか等、教員は日々模索しているのではないだろうか。本ワークショップでは、教員にもどの年代の学習者にも使い易いと思われるオンラインツールとその活用法について、意見を交わし合いながら進めていく。また、オンライン同期型授業時間を最大限活用するための教授法の一つとしてSOF LA（同期型オンライン反転授業教授法）についても、紹介する。

インプットとアウトプットの関係の再構築 —自然な英語の定着に向けて—

LET 早期英語部会

竹田里香（立命館大学）

石田雅子（大阪市立大学大学院生）

杉本孝美（大阪総合保育大学）

井狩幸男（大阪市立大学名誉教授）

言語習得過程におけるインプットとアウトプットの関係は、インプットからアウトプットへ移行するという見解が定着している。井狩（2021）は、インプットの過程で、理解するために気づきがたくさん起こり、予測につながる。その予測にはアウトプットの要素が含まれていると主張する。これに関連して、発表者は、実践授業での学習者のインプットとアウトプットの認知プロセスを見直し、学習者に向けられた理解可能なインプットに対し、気づきや検証のための脳内処理が生じ、その時点でアウトプットのような活性化状態が起こっていることを見出した。

本シンポジウムでは、幼児期の子どもへの英語絵本の読み聞かせ、ドラマを使った小学校でのワークショップ、多言語指導を受ける児童への英語クラスの3実践例を踏まえ、脳科学研究の視点から、アウトプットに焦点を当てることで見えてくる認知プロセスについて視聴者と共に再考する。

VOA Learning English を用いた 簡易 e-Learning 教材開発と授業実践事例

Simple E-Learning Material Development and Classroom Practice using VOA Learning English

神谷 健一 (大阪工業大学)

久田 歩 (大阪工業大学)

Kamiya, Kenichi / Hisada Ayumi (Osaka Institute of Technology)

キーワード： VOA Learning English, e-Learning, LEVOA

1. 概要

筆者らは VOA Learning English を利用した簡易 e-Learning 教材を 2020 年 8 月に企画し、LEVOA と称する教材開発研究チームを立ち上げ、その成果を <https://sites.google.com/view/voaleaningenglish/> にて無料公開している。ここではリスニング中心の学習に主眼をおき、各自のレベルにあった学習を狙っている。

具体的には 3 種類のスクリプト (英和併記、和訳のみ、英文のみ) を参照しながら当該範囲の音声を聴く活動から始めるが、さまざまな練習メニューを用意し、1 つの教材をさまざまな練習に使えるように工夫している。

LEVOA で開発している簡易 e-Learning 教材は本文からチャンクを抜き出すもので、1 本の記事から 70~80 箇所程度のチャンクを、それらの語数を手がかりに回答させるという内容で、Excel の関数式を利用し、非表示行に収めている正解と一致するかどうかを判定するという設計になっている。

2. 授業実践事例と課題評価の方法

参加者は大阪市内の大学 1 年次 176 名 (再履修者含む) で、科目名は受信英語 I である。通常は毎年度 44 名程度ずつを 2 名 2 コマの教員で担当するが、2021 年前期の 14 回の授業は 2 名の教員で 1 コマを担当する合同開講とし、前半・後半で授業担当・課題採点担当を交代する形で実施している。授業では読解の要領などについてオンライン同時配信し、事後に録画も学内限定で公開している。

問題となるのは、新型コロナ禍で試験が実施できないことによる課題での評価である。これまでに様々な工夫を行ってきたが、2021 年度前期は毎回の出席確認問題 2 点、提出物課題 4 点の蓄積に加え、学期中に提出させる簡易 e-Learning 教材ファイル 4 本 8 点分、ALC NetAcademy の進捗度 10 点分で、102 点満点を 100 点打ち切りとし、そのまま成績点とする旨を授業初回の配布文書に記載している。

3. 考察

本来の狙いとしては受信中心で進めるべきところ、その理解度の測定において、チャンクの入力や、英文の分析を書かせる形で評価することが適切であるかどうか悩ましいところである。オンライン授業の限界を考慮するとやむを得ないが、テスト分野における先行研究なども参照すべきであろう。

参考文献

神谷健一. (2021). 音声つきパブリックドメイン記事を利用したリスニング中心のオンライン英語学習教材の開発, e-Learning 教育学会第 19 回研究大会. <https://kmyken1.blogspot.com/2021/03/2021321-e-learning.h>

ポストコロナに向けて オンラインを活用した学校間での協同授業モデル

Toward Post-Corona: Cooperative Teaching and Learning Model among Schools using an Online System

堀尾 美央(滋賀県立米原高等学校)

キーワード： オンライン授業，協同学習，英語

1. はじめに

2020年3月の全国一斉休校を機に、オンライン授業の認知度は急速に高まった。GIGA スクール構想の準備が当初の予定を前倒しして進められ、滋賀県でも、各学校に授業で使用できるWifi環境を整備するなど、ICTを活用して授業を進める準備が着実に進んでいる。しかし、実際に学校が再開してからは、オンライン授業の必要性を感じなくなり、配付された機器を十分に活用できていない学校も多いのではないだろうか。

本実践では、オンライン環境を活用し、2つの異なる学校の生徒達が、同じ話題についてそれぞれ学び、最後に遠隔で繋がって自分たちの意見を交換した。ポストコロナにおける1つのオンライン授業モデルとして紹介したい。

2. 参加者と手順

参加者は、滋賀県立米原高等学校2020年度英語コース英語コース3年生と、工学院大学附属高等学校ハイブリッドインターナショナルコース3年生の生徒である。授業では、当時アメリカで高まっていたBlackLivesMatter運動について、それぞれが約7時間で学んだ。まずは、慶應義塾大学でアフリカ系アメリカ文学や人種理論を研究している有光道生准教授より、BLM運動に関連した講義を英語で受けた。同時に、有光准教授より提示された、講義内容に関するTEDプレゼンテーションや新聞記事を授業で取り扱い、それぞれの学校で考えを深めた後、7月に両校の生徒がZoomで繋がり、この問題に関して話し合った。

なお、Zoomによる意見交換授業は、各校の代表生徒たちが事前にオンラインで打ち合わせをし、当日も中心になって運営した。

3. 結果と考察

本実践で繋がった両校の生徒は、普段の学習環境も、生まれ育った環境も全く異なっており、最初はBLM運動に対する意識にも、英語力にも大きな差があった。しかし、Zoomでの遠隔講義を録画して繰り返し視聴できるようにするなど、同じ教材でも取り扱い方に工夫を入れることで、英語力の差を埋めることはできたと考えられる。また、最後の意見交換授業に向けて両校の生徒同士で打ち合わせをする中で、先方に刺激される姿が見られ、意見交換前の授業は自分たちがやりたいと申し出る一幕もあった。実際の意見交換授業は、インターネット環境の問題で成功したとは言い難いが、ポストコロナ期の授業の形として、1つのモデルができたと考えられる。

参考文献

大島純・千代西尾裕司編(2019) 主体的・対話的で深い学びに導く学習科学ガイドブック, 北大路書房

Google Slides による Virtual Classroom

Virtual Classroom made with Google Slides

真島 由朱(大阪府立箕面高等学校)

キーワード：Google Slides, ICT, Virtual Classroom, 授業支援ツール

Google Classroom、Moodle などの LMS (Learning Management System) 上での教材や課題配布は既に広く利用されているが、そこに追加するリソースとして、Google Slides で作成した Virtual Classroom の使用を提案する。ビジュアル面で生徒をひきつける工夫が容易であり、また LMS に再度投稿する手間なく、複数年・複数科目の生徒に有用なサイトのリンク集や問題集などを提示し、彼らの学習の助けとすることができる。

情報科学専攻日本人大学生の高頻度語彙親密度調査

Identifying Familiarity of High Frequency English Words
to Japanese University Students Majoring Information Science

古樋 直己(大阪工業大学)

Furuhi, Naoki (Osaka Institute of Technology)

キーワード： 語彙, 高頻度, 親密度

1. はじめに

北野 & 千葉 (2018) は, 3000 語の英語語彙リストである *The New General Service List* (NGSL) 1.01 (Browne, Culligan & Phillips, 2013) の頻度の高い方からで最初の 1000 語について調査協力者である合計 84 名の日本人大学生の語彙知識を調査している。知らない単語には×, 意味がはっきりとわからない単語には△, 知っている自信のある単語には何も印を付けないようにと指示し, 語彙に対する親密度を調査した。その結果, ×あるいは△が付けられたのは平均で 33 語であり, いずれかの調査協力者がいずれかの印を付したのは 461 語であった。高頻度語彙 1000 語中の半数弱に関して, 自信を持って知っていると言えない者がいることを明らかにしている。本稿では, 上記の親密度調査まで実施した結果を扱う。

2. 参加者と手順

参加者は, 大阪の情報科学を専攻する大学 2 年生及び 3 年生で, 有効な回答者は 150 名程度であった。北野 & 千葉 (2018) では紙に印刷したものを扱い, 20 分間で 1000 語に対する親密度を確認しているが, コロナ禍であるためオンラインで実施した。ライブ配信での実施ではなく, 締め切り日時を設定し, それまでに回答するように指示した。回答送信は 1 度のみで, 送信後の編集は不可とした。

北野 & 千葉 (2018) では CASEC によるスコアで初級クラスと中級クラスに分類しているが, 本研究では Vocabulary Levels Test (Nation, 2001) の 2000 語及び 3000 語レベルを全体で 50 問となるように修正したものを活用した。

3. 結果と今後の課題

調査協力者が×あるいは△を付した知識にあまり自信が持てない語は平均して 40 語程度で多くが 10 語から 70 語となっていた。また, いずれかの者が印を付けた語は 600 語弱存在していた。高頻度語彙であり, 大学生として全員に自信を持って知識があると言ってほしい語彙の半分強について, そう言えない現状である。今後, 高頻度語彙に関しても, 授業で指導しているようなより低頻度の語に加えて, 指導する必要がある。なお, 詳細な結果や考察については発表時に行う。

参考文献

Browne, C., Culligan, B. & Phillips, J. (2013). *The New General Service List*. Retrieved from <http://www.newgeneralservicelist.org/>

北野 & 千葉 (2018). 語彙知識の一側面：日本人大学生の理解が不足している高頻度語彙に関する考察. 『文教大学国際学部紀要』 29, 1, 19-29.

Nation, I.S.P. (2001). *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge: Cambridge University Press.

日本語教育でメディアをどのように提供するか：

優れた日本語学習者の学習行動からの示唆

How to Provide Media for Japanese Language Education: Implications in the Learning Behaviors of Good Language Learners of Japanese

陳 奕霖 (大阪大学 大学院生)

キーワード：日本語教育、メディア、学習行動

1. はじめに

情報社会の現在、言語教育ではメディアを活用することが少なくない。インストラクショナル・デザイナーや教師は魅力のある授業は効果的であると考えられる傾向がある（ケラー, 2010, p. 25）ため、メディアを提供する際にはメディアの魅力しか重視せず、学習者の学習過程におけるメディア利用の実態が看過されるかもしれない。本研究では、優れた日本語学習者の学習行動を質的に分析した結果から、そのメディア利用の実態を引き出し、実際の日本語教育または言語教育に示唆を与えることを目的としている。

2. 調査概要

本研究では、優れた日本語学習者に見られる仮の条件を日本語学習の優れたレベルに到達する水準・時間・日本語経験を基に、6 つに定め、中国語母語の日本語学習者 10 人を調査対象にした。そして、竹内（2003, pp. 79-81）の調査項目を参考にし、日本語学習記録調査という内省重視のアンケートを作成し、協力者には自分の学習経験を「初級」「中級」「上級」の3つの段階に分けてなるべく詳しく語ってもらった。

3. データの分析

収集したデータで 10 人に重複する類似の学習行動に 1 つの短いタイトルをつけ、学習行動の共通点の 1 つの項目とした。その結果、10 人の各学習段階の学習行動から、学習過程における 5 つの共通点が抽出された。しかも、それらの学習過程の共通点を関連づけ、学習者たちのメディアに対する利用の特徴・規律も引き出すことができた。

まず、学習者のメディア利用は中級に集中しており、初・上級での利用は少ないという傾向がある。また、全体から見れば、中級でのメディアの利用・種類は多いが、インプット、アウトプットなどの場合よっての利用頻度やメディアの種類には大きな差異が見られた。

4. 考察

コロナ禍で、ニューノーマル時代がきたため、学校側はメディアの多用を奨励することがあるが、初級と上級の学習者にとって、魅力的なメディアリソースは多ければ多いほど効果的というわけではない。以上の分析をさらに検討した結果、初級では、生のリソースの提供を抑えた方がいいかもしれない。上級では、専門的・アカデミックなリソースの提供をより重視する必要がある。それに対し、中級では、初級で習得した内容の復習と上級に至る刺激として、多様で適切なメディアリソースを高頻度に提供することが有利かもしれない。最後に、学習者のインプットを促進する時に、物的リソースとしてのメディアの提供が重要であるが、アウトプットを促進する時には人的リソースの利用、すなわち、人との対面的な交流、もしくはメディアを通して直接に人に触れた方がいいかもしれない。

参考文献

ケラー, J. M. (2010) 『学習意欲をデザインする—ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン』 鈴木克明訳, 北大路書房

竹内理 (2003) 『より良い外国語学習法を求めて—外国語学習成功者の研究—』 松柏社

クラウド型の最新 TTS 合成音の比較

Comparison of the Latest Cloud-based TTS Synthesized Voices

東 淳一 (神戸学院大学)

キーワード： TTS, 音声合成, Amazon Polly, Google Cloud, IBM Watson, Microsoft Azure

1. はじめに

クラウド型の TTS 合成音提供サービスのうち, Amazon Polly, Google Cloud, IBM Watson, そして Microsoft Azure のサービスおよび合成音の品質を検討する。これらのうち Amazon Polly と Microsoft Azure (Audio Content Creation) のサービスは Web 上で GUI 環境でテキスト入力から即合成音を生成でき、ダウンロードもできる。Google Cloud と IBM Watson については合成音作成のためプログラミングが必要であり、契約ベンダーに作製してもらった専用の Web アプリを使用して音声合成を行った。

2. 各サービスの特徴と音質評価

以下に各クラウドサービスの特徴を簡単にまとめたものを示す。

表 1. クラウド型 TTS サービスの比較

	Amazon Polly	Google Cloud	IBM Watson	MS Azure
SSML利用	○	○	○	○*1
入力文字上限	3000字	SSML含み5000字	SSML含み5KB	SSML含み20000字
ニューラル音声	○	○*2	○*3	○*4
音声の種類	米9英4豪3印2	米10英5豪4印4	米8英3	米6英8豪4加4印5
最大Sampling周波数	24kHz	24kHz	22.05kHz	24kHz
出力ファイル形式	mp3, ogg, PCM	wav, mp3等	ogg, wav, mp3等	wav, mp3
料金	極安	超極安?	?	安??*5
聴覚印象 (ニューラル)	No. 2	No. 3	No. 1	No. 1

1) 特殊なインターフェース。通常テキスト入力画面でも韻律制御可能。2) WaveNet という名称。Standard 音声の品質はかなり悪い。3) レスポンスが遅い。特にニューラル音声 DNN の場合に顕著。4) 標準音声には特に品質が悪いものがある。5) 請求料金が告知されるが 22,500 円分無料利用権つきのため実際にはクレジットカード引き落としはない。

3. 考察および今後の展望

2020 年度の実際のオンデマンド型オンライン授業では主に Amazon Polly と Google Cloud の合成音を利用した。理由はニューラル音声の種類が多いためである。日本語の音声については Google のものが voice 数が多く、より自然な韻律をもつ。またニューラル音声の種類は少ないが、IBM と Microsoft の合成音の方が聴感上の品質はよい。Microsoft についてはもともと1つのファイルの作成過程で自由に voice の切り替えができるが、最近になって Google Cloud においても voice タグを用いて話者の切り替えができるようになった。これにより複数話者による対話音声も1つのファイルで作成できるようになる。

オンデマンド型オンライン授業の準備で教員が話す動画を収録する方法は大変手間がかかる。これに対して Moodle 等の LMS に講義内容をテキストとして入れておき、解説の音声を TTS 合成音で提供する方法により、教材の再利用や後ほどの音声の修正や追加等が大変容易になる。TTS は一般産業界のみならず、教育界においても広範囲での利用が今後期待される。

学習者コーパスに基づく L2 英語文法形態素発達研究: 多要因分析と縦断的研究

村上明 (University of Birmingham)

近年、第二言語 (L2) 研究での学習者コーパス利用が広まるにつれ、学習者コーパスのデータとしての特性や適切な分析法を理解する重要性が高まっている。従来の学習者コーパス研究では (サブ) コーパス間での頻度比較がその中心であったが、最近はその単要因分析に加え、多要因分析や (しばしばその一種としての) 縦断的研究が増加傾向にある。L2 研究で扱われる現象は通常複数の要因から影響を受けており、単要因分析よりも多要因分析を用いる方が好ましいことが多い。とりわけ学習者コーパス研究では産出言語に影響を与える諸要因を事後的に統制することが多いため、多要因分析は更に重要となる。

多要因分析を伴う学習者コーパス研究の例として、講演者が行っている英語文法形態素の正確性に関する研究を二件紹介する。Murakami and Alexopoulou (2016) ではケンブリッジ学習者コーパスを用いて、母語・熟達度・形態素などの複数の要因により正確性がどのように変動するのかを調査し、学習者の母語によって文法形態素の正確性の順序は異なること、熟達度間では順序はほぼ不変であること、母語が正確性に及ぼす影響は形態素間で異なることを明らかにした。当該研究では形態素間の正確性の差が焦点であったが、形態素使用の正確性は同じ文法形態素内でも体系的に異なることが知られている。現在 Nick Ellis 氏 (ミシガン大学) と行っている研究では、個々の文法形態素内 (例えば過去形の-ed) での形態素使用の正確性の変動を検討している。具体的には文法形態素の正確性は (i) 表層形の頻度 (例えば *asked* vs *requested*)、(ii) 表層形とレンマの結びつきの強さ (例えば *decided* vs *liked*)、(iii) 表層形が生起する文脈の定型性 (例えば *since I graduated from college* vs *wanted a lot of*) という三要因に影響を受けるか否かを検証した。学習者の熟達度等の共変量を統制した上で分析を行ったところ、誘出模倣課題を用いた先行研究 (Guo & Ellis, 2021) の結果とは異なり、上記の (ii) の要因のみ、正確性との結びつきが観察された。

多要因分析に加え、近年の学習者コーパス研究では縦断的研究も増加している。Murakami (2016) では EF-Cambridge Open Language Database を用いて、文法形態素の正確性の縦断的発達パターン並びにその個人差を計量的に調査した。その結果、個人差は大きく、個人レベルの発達パターンと集団レベルの発達パターンには大幅な乖離があることが明らかとなった。大規模な縦断的学習者コーパスを用いることにより、このように体系性と個別性を分離・定量化し、個人レベルの発達パターンは集団レベルのパターンからは導けないことを明らかにした。

References

- Guo, R. & Ellis, N. C. (2021). Language usage and second language morphosyntax: Effects of availability, reliability, and formulaicity. *Frontiers in Psychology*, 12, 582259.
- Murakami, A. (2016). Modeling systematicity and individuality in nonlinear second language development: The case of English grammatical morphemes. *Language Learning*, 66(4), 834–871.
- Murakami, A., & Alexopoulou, T. (2016). L1 influence on the acquisition order of English grammatical morphemes: A learner corpus study. *Studies in Second Language Acquisition*, 38(3), 365–401.

MALL システム 〈キャラボ エムエックス〉

Chieru

CaLabo[®] MX

授業運営に必要な機能と、先生にやさしい操作性で
PC 学習も、スマホ学習も一元管理。

英語4技能の
学習支援

4技能に対応した
学習支援機能が充実。

導入コスト
運用負荷の低減

導入コスト・運用負荷を
軽減します。

学習履歴を
一元管理

PCもスマホも！
学習した内容を一元管理。



英語 4 技能学習に特化した クラウド型の MALL システム

MALL とは、"Mobile Assisted Language Learning" の略。ノート PC やスマホなど可搬性のあるモバイル端末を利用した語学学習を指します。

英語4技能の学習に対応した豊富なアクティビティ

豊富な教材も搭載!

学習履歴を一元管理

聞く
Listening

リスニング
シャドーイング
ディクテーション

音声速度や音量の調整、A-Bリピート
などリスニングに便利な機能を搭載。



話す
Speaking

発音矯正
スピーキング表現
シャドーイング
レコーディング

発音矯正や、真時に口読回答。
音声認識により、自動採点を実現。



読む
Reading

リーディング
英文訳読
辞書コイズ

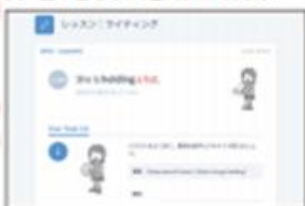
単語の早引きや「My単語帳」への登録。
習得済み単語の色分けなど。



書く
Writing

ディクテーション
ライティング表現

ディクテーションや質問に筆記回答。
英単語の書き取り、自動採点を実現。



Chieru
チエル 株式会社

東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー3F (本社)
お電話は、土・日・祝日を除く午前10:00～午後5:00まで受け付けております。

☎ chieru-sales@chieru.co.jp ☎ 03-6712-9721 www.chieru.co.jp



※下部 URL (QR) より学会特別価格にてご注文承ります。

日本人のための インド英語入門 ことば・文化・慣習を知る

本名信行 /

SHARMA Anamika [著]

A5 判 / 並製 264 ページ

ISBN978-4-384-05953-3

<https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384059533/>



英語発音の指導

基礎知識からわかりやすい指導法・
使いやすい矯正方法まで

有本 純 / 河内山 真理 / 佐伯 林規江 /

中西のりこ / 山本誠子 [著]

A5 判 / 並製 128 ページ

ISBN978-4-384-05952-6

<https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384059526/>

《電子版もございます》



コミュニケーション・タスクの アイデアとマテリアル

教室と世界をつなぐ英語授業のために

加藤由崇 / 松村昌紀 /

Paul Wicking [編著]

横山友里 / 田村 祐 / 小林真実 [著]

A5 判 / 並製 264 ページ

ISBN978-4-384-05940-3

<https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384059403/>



教育としての CLIL

笹島 茂 [著]

A5 判 / 並製

304 ページ

ISBN978-4-384-05929-8

<https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384059298/>

《電子版もございます》



新・日本語教育を学ぶ なぜ、なにを、どう教えるか

遠藤織枝 [編著]

岩田一成 / 金田智子 / 小柳かおる / 島田めぐみ /

福田倫子 / 本田弘之 / 谷部弘子 [著]

A5 判 / 並製 260 ページ

ISBN978-4-384-05973-1

<https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384059731/>

《電子版もございます》



他者につながる外国語学習をめざして 「外国語学習のめやす」の導入と活用

田原恵和 [編著]

山崎直樹 / 齊藤公輔 / 田中祐輔 / 大森洋子 / 茂木良治 /

池谷尚美 / 中川正臣 / 植村麻紀子 / 松崎真日 / 野澤督 /

村上陽子 / 能登慶和 / 鈴木冨子 / 依田幸子 / 柳素子 /

櫻井千穂 / 澤邊裕子 / 阪上彩子 [執筆]

A5 判 / 並製 350 ページ

ISBN978-4-384-05927-4

<https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384059274/>

《電子版もございます》



三修社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-2-22

TEL 03-3405-4511

<https://www.sanshusha.co.jp>



この他の書籍もございます

特別価格販売のご注文はこちらから

<https://forms.gle/oxRecSQynMWSqgc29>

オンライン授業お勧め商品のご案内

映像教材：

映像配信サービスとテキストが一体となった商品です。



StreamLine
ONLINE VIDEO STREAMING SERVICE

先生方のメリット	学生のメリット
<ul style="list-style-type: none"> ● 遠隔で映像の共有が可能。 ● 映像を使った課題指示がしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● PC やスマートフォン、タブレットで映像視聴ができる。 (※インターネット環境が必要)

リングポルタ対応テキスト：

テキストと e ラーニング学習コースが一体となった商品です。



LINGUAPORTA

先生方のメリット	学生のメリット
<ul style="list-style-type: none"> ● Unit ごとに課題が出せるので課題準備のご負担が少ない。 ● e ラーニング導入に伴う費用が発生しない。 ● ご担当クラスの学生の学習履歴を閲覧し、成績に反映することができる。 ● 学生の学習状況が定期的にメール配信されるサービスもある。 ● リングポルタのコンテンツからテスト問題が作成できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● PC やスマートフォン、タブレットで学習ができる。 ● テキストを購入すれば原則1年間無料で利用できる。 ● 定着していない学習項目は、学生が習得するまでスパイラルに提示されるので定着できる。 ● 正解率に応じた問題量の自動調整機能がある。

EnglishCentral 対応テキスト：

テキストと e ラーニング学習コースが一体となった商品です。



EnglishCentral

先生方のメリット	学生のメリット
<ul style="list-style-type: none"> ● Unit ごとに課題が出せる。 ● e ラーニング導入に伴う費用が発生しない。 ● クラスの学習履歴が確認できる。 ● 学習目標の設定ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● PC やスマートフォン、タブレットで学習ができる。 ● テキストを購入すれば無料で利用できる。 ● 音声認識システムが、学習者の発話を判定！

ActeaBo 対応テキスト：

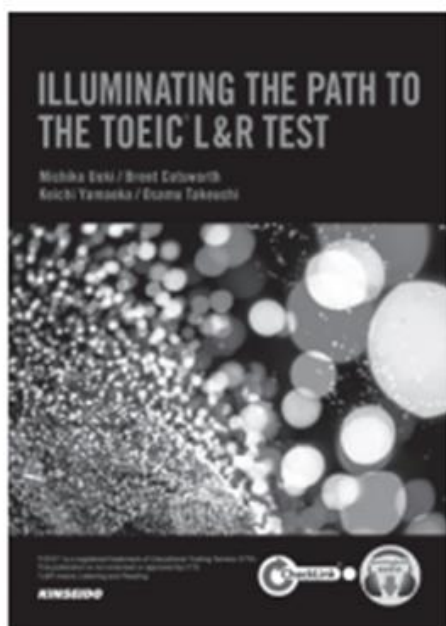
テキストと e ラーニング学習コースが一体となった商品です。



ActeaBo

先生方のメリット	学生のメリット
<ul style="list-style-type: none"> ● Unit ごとに課題が出せる。 ● クラス単位で履修者の管理も可能で、学習状況を把握しながらご利用いただけます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● PC で学習ができる。 ● 学習進捗状況が視覚的に確認できる。

新刊案内



¥1,900 (税込 ¥2,090)
B5判 152 pp. 全15章
ISBN978-4-7647-4127-0

ILLUMINATING THE PATH TO THE TOEIC L&R® TEST

新・重点特化型 TOEIC® L&R テスト実力養成

植木美千子 / Brent Cotsworth / 山岡浩一 / 竹内理 著

重点特化型タスクで英語力と TOEIC スコアを UP
好評テキスト待望のリニューアル!!

*本書は LIGHTING UP THE TOEIC® TEST の改訂版です

- ポイント解説などの TOEIC 対策に加え、重み付けされたディクテーションやペアによるボキャブラリーチェックといった画期的なタスクで、受け身だけではなく TOEIC の授業を可能にします。
- 各ユニットのポイントをまとめたチェックページで学習項目を主体的に復習。確実な定着を図ります。
- Review Test (2回) のほか、教授用資料には模擬テスト (50問)、小テスト (語彙・文法)、追加問題、ディクテーションシートなどを収録し、授業をサポートする付属品も充実!

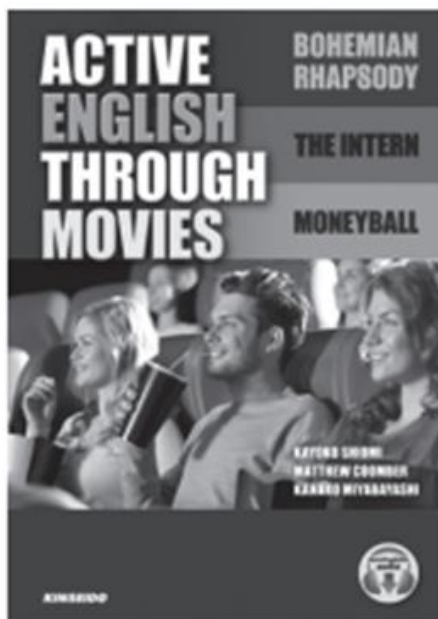
Active English through Movies

アクティブ・ラーニング型 映画で学ぶ英語 4 技能

塩見佳代子 / Matthew Coomber / 宮林賀奈子 著

『ボヘミアン・ラブソディ』『マイ・インターン』『マネーボール』3本の人気映画で4技能を楽しく主体的に身につける!

- エンターテインメント、ファッション、スポーツとタイプの異なる3つの業界を扱った映画を取り上げ、多様な関心に対応。各業界のビジネスも疑似体験できます。
- ディクテーション、ロールプレイ、字幕作成、レビューなど、映画に関連した多彩なアクティビティで、受信力だけでなく発信力も含めた4技能の養成をめざします。
- ご採用者様に映画 DVD 贈呈



¥2,000 (税込 ¥2,200)
B5判 104 pp. 全15章
ISBN978-4-7647-4125-6

金星堂
since 1918
KINSEIDO

株式会社 金星堂

東京都千代田区神田神保町 3-21 (〒101-0051)

電話 03-3263-3828 / FAX 03-3263-0716

e-mail text@kinsei-do.co.jp

http://www.kinsei-do.co.jp



進化する語学教育現場を 6つのアプローチで サポートします!

学生が授業時間外に
勉強をしない

予算が無い

学生の英語力
の差が激しい

グローバル化社会、情報化社会に対応するための教育改革が急務となる中、
次々と浮かび上がってくるキーワード。
私たちアルクは、長年培った経験や実績を生かし
英語教育の現場で奮闘する先生方を応援します。

ネイティブの先生も
使える教材が欲しい

TOEIC®テスト/TOEFL®
テスト対策をしたい

CEFR 準拠の
教材が欲しい

トータルソリューションならアルク。

2.アルクのeラーニングシステム

ALC NetAcademy NEXT

延べ100万人以上が受講した ALC NetAcademy
シリーズの最新版
シリーズ導入教育機関数 延べ約620校
企業数 延べ約480社

特
徴

- 分かりやすいレベル設定
- モバイル対応でどこでも学習
- 学習の進捗が一目瞭然
- 6技能を習得、テストで定着度を確認
- アルクのコンテンツが学習素材

全12コース

- 総合英語トレーニング 初級コース
- 総合英語トレーニング 中級コース
- 総合英語トレーニング 上級コース
- TOEIC®L&R テスト突破コース
(500点・600点・730点)
- TOEFL ITP® テスト攻略コース
- 基礎からの英文法トレーニングコース
- 医学・医療英語コース
- PowerWords Hybrid コース
- 英単語パワーアップコース
(TOEIC®テスト、TOEFL®テスト、
理工、医学・医療)

1.書籍・教材開発

- 書籍:累計490万部を突破した「キクタン」シリーズをはじめ、
TOEIC®テスト・TOEFL®テスト対策書籍から専門英語書籍
まで充実のラインナップ
- 通信講座:「ヒアリングマラソン」は延べ120万人以上が受講

3.研修・授業

教育機関の学生や教職員、企業・団体の学習者を対象に英語コミュニケーション
力向上プログラムを提供

- FD研修
- TOEIC®対策
- コミュニケーション
- ビジネス
- SD研修
- TOEFL®対策
- ディスカッション
- 留学前研修
- 自己学習法
- 異文化コミュニケーション (他多数)

4.電話によるスピーキングテスト

TSST=英語スピーキングテスト
年間約1万人が受講

5.英語学習アドバイザー

ESAC® (イーザック)
=English Study Advisors' Certificate
学習者の自律学習をバックアップ

6.デジタルコンテンツ

- アルクオンライン英会話
- アルクオンライン日本語スクール
- 英辞郎 on the WEB Pro
- 各種アプリケーション

株式会社アルクエデュケーション 文教営業チーム

e-mail: academy@alc.co.jp

http://www.alc-education.co.jp/academic/



総合力
を向上

TOEIC® L&R 対応 総合英語コース 8

Practical English 8

PC・スマートフォン・タブレットに対応!

習得
スキル



リーディング



リスニング



文法



発音練習



辞書



TOEIC® L&R
対策

8

Practical English 8

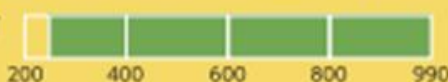
対象レベルと概要

コース
ゴール

- ① 総合的な英語力をバランスよく強化
- ② TOEIC® L&R スコアアップ
- ③ 弱点の強化

【初級～上級】 TOEIC® L&R スコア 225～990 程度

LEVEL CHART
(TOEIC® L&R)



レッスン数	レッスン数 全 420レッスン ●リスニング / 150 ●リーディング / 150 ●文法 / 120
平均学習時間	30分～45分 / 1レッスン
コースボリューム	210～320時間
標準受講期間	3～12ヶ月
言語	日本語・英語

動作環境

【PC動作環境】

Microsoft Edge, Google Chrome, Firefox, Safari, すべて最新版。

【スマートフォン・タブレットアプリ動作環境】

iOS 12 以上, iPhone 5 以上, iPad Android 5.0 以上。

画面サイズ4インチ以上のスマートフォンもしくはタブレットデバイス
最新の動作環境については以下のURLからご確認ください。(2021年2月時点)

https://info.reallyenglish.jp/system_requirements

まずは無料体験レッスンを!

Practical English 8 の
無料体験レッスンはこちら▶

※体験レッスンは「電子書籍
(リーディングレベル 2)になります。



<http://bit.ly/pe8demo>

問い合わせ先:

株式会社EduInX 学校営業部
academic@reallyenglish.jp

特長

総合力を伸ばす6つのキーポイント

受講者一人一人に合わせてカリキュラムを自動生成
弱点を重点的に学習するのでレベルアップが早い



英語力を診断

- 学習前にリーディング、リスニング、文法、各25分のテストで受講生の弱点を診断
- 診断テストで一人一人の結果に応じた最適なレッスンを提供



アダプティブ フォーカス機能

- 診断テストを基に、あなたに必要なレッスンを提供。レッスンの表示順は、あなたが強化すべき順に並んでいます。



TOEIC®L&R対策にも強い 420レッスン

- TOEIC®L&R 225～990対応
- トピックは日常からビジネスまで多種多彩
- 300時間以上の学習ができる。



いつでも、 どこでも学習できる

- 細切れの時間で学習できるマルチデバイス対応 (PC・スマートフォン・タブレット)
- 学習の途中は保存可
- 自分のペースで着実にスコアアップ



復習用にスクリプト付き

- 1レッスンをまとめたレッスンサマリー (PDF) も印刷可能なので、復習にお役立てください。



学習効果と モチベーションアップ

- 効率的でモチベーション向上につながる復習機能
- テストスコアの推移を折れ線グラフで表示などの最新機能が充実